

市民レポーターの皆さんが、市内のさまざまな場所に出かけて、市民ならではの視点から小牧の魅力や身近な話題について取材した様子を、毎月紹介していくコーナーです!



左からみっちー、親方、ジョウジの3人



たくさんの子どもたちが集まる岩崎山プレーパークの様子です。

地域の「子どもの居場所を「粹」に作っています!

味岡児童館の指定管理者のメンバーとして、子どもたちの居場所作りについて学んでいた時「もう一歩先に進みたい!」と思い、「一般社団法人「こころいき」を立ち上げ設立した代表の坂本道徳さんら3人。子どもたちにどんな思いを持ち、活動を始めたのかを聞いてきました。

代表を勤めるみっちーこと坂本道徳さんは20年以上勤めた会社を退社し、この活動に専念することを決めました。

彼の気持ちと同じ熱い思いを持つ親方こと坂本陽さん、ジョウジこと中村城二さんの3人が、子どもたちにとって新しい形の居場所づくり「プレーパーク」を市内各所で始めました。

発見・創造を楽しむ

プレーパークには、炭火が焚かれ、家から持ってきたお菓子を焼いて楽しんだり、自転車で枯れ葉の中を滑り下りてきたり、遊具の上でおしゃべりしながら宿題をやっていたりと思いきいの遊び

をしています。「こころいき」から遊びを用意したり、皆を集めて何かをしたりすることはありません。子どもたちが自由に過ごしています。取材時には、誰かが声を掛けたのか、鬼ごっこが始まり、学年も性別も違う子どもたちが、一斉に走り出し、そのこどもらしい姿と笑い声に、なぜか新鮮さを覚えたはず。

熱い思いが動きます

「こころいき」の思いは、子どもたちが生きる希望を持てる社会になってほしいというのが根底にあります。

「いろいろな経験をして『ダメ』ではなく危ないことを知っていく。失敗し

てからどうするかを考えられる人になってほしい」と思いを口にします。

隣に座ってきた子どもが、ふと悩みを打ち明け、てくることもあるそうですが「いつでも僕たちは「ココにいる」と心で伝えたいと。

「迷惑かけていいんだよ、こどもだから。こっちもおせっかいだからね」と優しく笑う親方はこどもたちの人気者です。

さまざまな人とともに

いつか子どもたちと一緒に遊びたいと乗馬クラブでポニーの世話を学んだり、馬糞を混ぜた土で野菜作りをしたりしています。企業やボランティア団体にも一方的にモノやサービスを受け取るだけではなく、こどもたちも学びのきっかけにできるよう

な連携協定を模索しています。先月初めて、東籾興業小牧工場と協定を結び、プレーパークで使う紙コップを提供してもらったことになりました。他にも多くの企業からさまざまな支援をもらっているそうです。

まだまだ始まったばかりで道半ば。3人で反省会を開き、話し合いを重ね、ブレない方向性を持ち続けていきます。

「いつか、僕たちがいられなくなるような社会ができあがったらいいですね」と話す姿は、まさに『粹』でした。

編集後記



みくる

「いつも僕たちは「ココにいる」。この言葉に込められた熱い思いに本物を感じました。ぜひ、インスタから近所の開催場所を探して遊びに行ってみませんか。」

今回の取材先

(一社) こころいき

問い合わせ先: kokorokiki91@ohmitsukichi@gmail.com



事業内容について↑



活動場など Instagram

目標は全国制覇



1期生26人が入団式後に撮った集合写真です

ヨゴスポーツ小牧 始動!

今年4月、小牧市で唯一の軟式野球のクラブチーム「ヨゴスポーツ小牧」が発足しました。代表・監督ともに篠岡中学校の卒業生で、苗字も揃って「余語」。幼馴染みであり、小学校から野球を始め甲子園を目指した野球経験豊富な2人。大人になって目指したのは、小牧で野球のクラブチームを作り、野球で小牧を盛り上げることです。チームのことをいろいろ聞いてきました。

がつり握手するのは、代表の余語充さん(右)と監督の余語将馬さん



基本から、必要な技術まで真剣にこどもたちに教える監督やコーチたち

第1期生として入団したのは、市内各所から集まった26人。全員中学生1年生です。2、3年生を募集しなかったのは、じっくり育てていきたいという思いからだそうです。1年目は基礎を学び、2年目は実践、3年目で全国大会出場、そして全国制覇が目標です。

野球を知り尽くす監督

監督の余語将馬さんからこどもたちに出た第一声は、「一生で野球がやれる時間は短く、やれない時間の方が長い。野球を通じて経験したことをやれない時間にも生かせるよう、基本的な挨拶、礼儀を学び、人間的に成長

をしてほしい」と。そして、「コーチからは「まず声を出すこと、声はチームのエネルギーになる」「一人の声に周りも答えて盛り上げる、そうすることで自然と力が湧いてくる」と激が飛びました。

監督は社会人野球チームに所属し、クラブチームの指導者も経験してきました。「練習中必ず一人に一つ、アドバイスをしたい」と真剣な眼差しで答えます。

野球で地域を活性化

今回入団したこどもたちや保護者の中には、中学校で野球部がないことを知り「中学生になってもこどもが野球をやりたいと言った」

「少年野球で頑張ってきたので、もう少し野球をやらせなかった」などといった入団動機を話す人もいました。

代表の余語充さんは「野球をする環境が少なくなってきた今、知識のある指導者が必要であり、きちんとした野球を学んでほしいという思いでチームを立ち上げた。地域で野球をもっと盛り上げていきます」と意気込みを話します。

夏前の見学会や体験会の予定は、インスタグラムで確認できます。

編集後記



どの子もとても覚えが早く、一度言われたことはすぐに実践できていて、素晴らしいなと思っていました。今後の活躍がとも楽しみですね。

今回の取材先

ヨゴスポーツ小牧

※問い合わせはインスタグラムのDMから



Instagram



YouTube